

ティーチング・ステートメント

薬学部

名前 中原 和秀

作成日 2024.3.12

【責任】

薬学部薬学教育分野に所属し、講義としては4年次の「薬と疾病（皮膚・感覚器）」、3年次の「臨床薬学Ⅰ」と「臨床薬学Ⅲ」、5年次「エデュケーションスキル」、1年次「フレッシュマンセミナー」、実習としては4年次「臨床薬学実習Ⅱ」、「臨床薬学実習Ⅴ」を担当している。また入学前教育、国家試験対策、OSCE 関連、卒後の生涯学習研修、指導薬剤師養成にも関わっている。研究活動は薬学教育分野の研究活動を実施している。大学の課外活動の1つである弓道部の顧問も担当している。

【理念】

私がこれまで薬剤師として活動してきた薬局薬剤師、学校薬剤師、スポーツファーマシストなどの経験および薬学研究者として化学を主軸とする有機化学、計算化学、衛生化学などで培った知識を活かし、学生に対して最近の薬学の世界を取り巻く実情や諸問題を伝え、また大学で身に付ける基礎知識や実務実習に行くために必要な最低限の技術を教え、さらには社会人としてマナーを身に付けさせることで薬剤師の専門性を十二分に発揮し、社会に求められる薬剤師を育成することを理念と考えている。

弓道部顧問として、学生が充実した活動が行えるように、技術的指導および環境整備に協力している。

【方針・方法】

自身の理念を実現するために、以下の方法・方針を取り入れている。

方針1 大学で教えた知識を身に付けるための工夫としては、以下の方法を取っている。

- ①低学年時に学んだ基礎科学を定着させるため、臨床薬学Ⅰの講義にて基礎科学を臨床現場の諸問題に繋げる講義を導入している。
- ②講義内容を復習しやすいように科学計算に関しては、計算過程を省略しない資料作成を心掛けている。
- ③講義内容の複雑な事柄については学生がより理解しやすくなるように、難しい言葉には注釈を加え、できるだけ噛み砕いた内容に言い換えた資料を作成している。
- ④講義の復習がしやすいように、moodle上に毎回課題を提示している。
- ⑤講義復習用の課題については、国家試験問題をベースに作成している。
- ⑥複数回の講義後には中間テストなどの小テストを設け、学生に勉強を促している。
- ⑦講義は基礎的な事柄を重視している。
- ⑧講義中に関連する国家試験問題に触れることで、内容の重要性を理解させている。

方針2 薬学全般に興味を持ってもらい、学習のモチベーションを高め、自分自身の薬剤師像を描いてもらうために以下の方法を取っている。

- ①附属薬局で派遣薬剤師として週1回勤務し、薬剤師としての自己研鑽を行っている。
- ②現場から最新トピックを入手し、講義・実習の際に学生へ伝えている。
- ③学校薬剤師やスポーツファーマシストの経験を講義にて伝えている。
- ④自身のこれまでの薬局薬剤師の実体験を講義に導入している。

方針3 学生に社会人としての身に付けてほしいマナーを身に付けさせるため、以下の方法を取っている。

- ①自身の講義時間・終了時間を厳守することで、学生の手本になっている。
- ②臨床薬学実習に関しては、学生に対して5分前行動を促している。
- ③学生に対して遅刻、忘れ物など不測の事態のときは、担当者に事前に連絡するように教育している。
- ④学生評価項目の1つである「態度」については、ルーブリック評価を行っている。

方針4 充実した部活動を行えるように以下の方法を取っている。

- ①自身が弓道4段の有段者、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（弓道）の資格を有しているため、技術的指導を行っている。
- ②道具を大切にすることを育てるため、大学備品である弓道具の修理・メンテナンスを率先して行っている。
- ③弓道部顧問として、少なくとも週1回は必ず弓道場に出向いている。
- ④自身の弓道の技術向上のため、昇段を目指し、講習会に参加している。

【成果・評価】

授業アンケート結果にて、「分かりやすい資料で復習しやすかった」などコメントを頂いている。ただ課題に関して、「学修していない箇所があった」、「講義中にフィードバックしてほしい」など意見もあった。また「臨床薬学Ⅰ」は、基礎と臨床を繋げる目的のため、授業アンケートとは別にアンケートを作成した。知識の理解度を確認したところ、基礎科学の知識の重要性を認識した結果が得られたので、今年度の教育実践報告として紀要に投稿した。

講義を見学した教員3名のフィードバックより、柔らかい口調で分かりやすいスライドであると好評であったが、講義の説明にメリハリが少ないので、どこが大事か伝わりにくいと意見を頂いた。

大学弓道部は、男女ともにトップリーグである1部リーグに所属しており、今年度は全道新人戦にて準優勝した。

【目標】

薬剤師および薬学への興味関心を高めるような講義および学生により分かりやすい資料を作成し、講義の説明に関して、どこが重要か、大切なところはどこかメリハリのある講義にする（短期）。また最近のトピックを講義に取り入れ、現場の常識や知識とのズレの解消に心掛ける（短期）。講義内容に関して、課題問題の解説を取り入れ、学生のより深い理解を促す（短期）。

長期目標としては、国家試験の複合問題に関して、基礎と臨床の繋がりを理解することで、正解へ容易にたどり着くことができるような学生の育成を目指す。